

例題 関数 $f(x)$ と $g(x)$ は $x = a$ で連続とする. 積 $f(x)g(x)$ も $x = a$ で連続なことを示せ.

解答例 $M_1 = \max(|f(a)|, 1)$, $M_2 = \max(|g(a)|, 1)$ とおく. $q > 0$ を実数とすると, $f(x)$ は $x = a$ で連続だから, 実数 $r_1 > 0$ で, $|x - a| < r_1$ ならば $|f(x) - f(a)| < \min(\frac{q}{3M_2}, \sqrt{\frac{q}{3}})$ となるものがある. 同様に実数 $r_2 > 0$ で,

$|x - a| < r_2$ ならば $|g(x) - g(a)| < \min(\frac{q}{3M_1}, \sqrt{\frac{q}{3}})$ となるものがある.

$r = \min(r_1, r_2) > 0$ とおけば, $|x - a| < r$ ならば

$$\begin{aligned} & |f(x)g(x) - f(a)g(a)| \\ & \leq |f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| + |g(a)| \cdot |f(x) - f(a)| + |f(x) - f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| \end{aligned} \quad (1)$$

$$< M_1 \cdot \frac{q}{3M_1} + M_2 \cdot \frac{q}{3M_2} + \sqrt{\frac{q}{3}} \cdot \sqrt{\frac{q}{3}} = \frac{q}{3} + \frac{q}{3} + \frac{q}{3} = q$$

となる.

考え方 $|f(x) - f(a)|$ と $|g(x) - g(a)|$ が小さければ, $|f(x)g(x) - f(a)g(a)|$ も小さくなることを示したい.

$f(x)g(x) - f(a)g(a)$ を $f(x) - f(a)$ と $g(x) - g(a)$ で表す. 辺の長さが $f(x)$, $g(x)$ の長方形から $f(a)$, $g(a)$ の長方形を取り除いて残った部分を3分割すれば

$$\begin{aligned} & f(x)g(x) - f(a)g(a) \\ & = f(a) \cdot (g(x) - g(a)) + g(a) \cdot (f(x) - f(a)) + (f(x) - f(a)) \cdot (g(x) - g(a)) \end{aligned}$$

となる. これの絶対値をとれば不等式(1)が得られる.

目標: $q > 0$ を実数として, 「 $|x - a| < r$ ならば $|f(x)g(x) - f(a)g(a)| < q$ 」をみたす実数 $r > 0$ をみつける.

不等式(1)の右辺は3項あるので, それぞれが $< \frac{q}{3}$ ならばその和が $< q$ となる.

第1項について, $|g(x) - g(a)| < \frac{q}{3|f(a)|}$ ならば $|f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| < \frac{q}{3}$ となるが, $f(a) = 0$ かもしれない. $M_1 = \max(|f(a)|, 1) \geq 1$ とおけば, $|g(x) - g(a)| < \frac{q}{3M_1} = q_1$ ならば $|f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| < M_1 \cdot \frac{q}{3M_1} = \frac{q}{3}$ となる. $q_1 > 0$ なので, $g(x)$ が $x = a$ で連続という仮定より, 実数 $r_1 > 0$ で $|x - a| < r_1$ ならば $|g(x) - g(a)| < q_1$ をみたすものがある. この r_1 に対して, $|x - a| < r_1$ ならば $|f(a)| \cdot |g(x) - g(a)| < \frac{q}{3}$ となる.

第2項についても同様に, 実数 $r_2 > 0$ で $|x - a| < r_2$ ならば $|g(a)| \cdot |f(x) - f(a)| < \frac{q}{3}$ となるものがある.

第3項については、 $|f(x) - f(a)| < \sqrt{\frac{q}{3}} = q_3$, $|g(x) - g(a)| < q_3$ ならば
 $|f(x) - f(a)||g(x) - g(a)| < \sqrt{\frac{q}{3}} \cdot \sqrt{\frac{q}{3}} = \frac{q}{3}$ となる。

$q_3 > 0$ なので、 $f(x)$ が $x = a$ で連続という仮定より、実数 $r_3 > 0$ で $|x - a| < r_3$ ならば $|f(x) - f(a)| < q_3$ をみたすものがある。同様に実数 $r_4 > 0$ で $|x - a| < r_4$ ならば $|g(x) - g(a)| < q_3$ をみたすものがある。

$r > 0$ を $r_1, r_2, r_3, r_4 > 0$ のうちで最小のものとするれば、 $|x - a| < r$ ならば3項ともすべて $< \frac{q}{3}$ となり、 $|f(x)g(x) - f(a)g(a)| < q$ がみたされる。

問題 1 関数 $f(x)$ は $x = a$ で連続であり, $f(a) \neq 0$ とする. $\frac{1}{f(x)}$ も $x = a$ で連続なことを示せ.

解答例 $q > 0$ を実数とすると, $f(x)$ は $x = a$ で連続だから, 実数 $r > 0$ で, $|x - a| < r$ ならば $|f(x) - f(a)| < \min(\frac{q|f(a)|^2}{2}, \frac{|f(a)|}{2})$ となるものがある. この $r > 0$ について, $|x - a| < r$ ならば

$$|f(x)| \geq |f(a)| - |f(x) - f(a)| > \frac{|f(a)|}{2} \quad (2)$$

だから,

$$\left| \frac{1}{f(x)} - \frac{1}{f(a)} \right| = \frac{|f(x) - f(a)|}{|f(x)||f(a)|} < \frac{q|f(a)|^2}{2} \frac{2}{|f(a)|} \frac{1}{|f(a)|} = q \quad (3)$$

となる.

考え方 目標: $q > 0$ を実数として, 「 $|x - a| < r$ ならば $\left| \frac{1}{f(x)} - \frac{1}{f(a)} \right| < q$ 」をみたす実数 $r > 0$ をみつける.

(3) の第2項の分母の $f(x)$ がもし $f(a)$ だったら, 「 $|x - a| < r$ ならば $|f(x) - f(a)| < q|f(a)|^2$ 」となる r をとればよい.

$f(x)$ は $f(a)$ と等しくはないが, 近いはずなので, $|f(x) - f(a)| < \frac{|f(a)|}{2}$ がなりたつようにできれば, $f(a) = f(x) + (f(a) - f(x))$ より, $|f(a)| \leq |f(x)| + |f(a) - f(x)|$ であり, 移項して (2) が得られる.